令和８年度　藤枝明誠中学校 中間学校評価

※評価基準　A：十分に実践されている　B：ある程度実践されている　C：不十分である　D：わからない　　令和８年１０月

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。						
経営方針	（1）「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」、「自然愛や人間愛を大切にする豊かな情操」を培う。 （2）「日本人としての美徳を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質」を培う。						
重点目標	Ⅰ　知育の推進　Ⅱ　徳育の充実　Ⅲ　健康な身体の育成　Ⅳ　豊かな生活の追求　Ⅴ　家庭地域との連携　Ⅵ　生徒募集の充実　Ⅶ　教育施設設備の活用						
	評価項目	令和８年度具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標	令和７年度実施状況	学校自己評価 評価	学校自己評価 教員コメント　▲：改善　◇：提言	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 評価委員コメント　▲：改善　◇：提言
Ⅰ 知育の推進	授業の充実と難関大学進学に向け啓発・学びの自覚向上	① 数・英等で発展学習実施　3grp 編成（J2J3）と運行の工夫 数学応用個別指導 英検 3/P2/2/P1 級等放課後補強指導 英語「NEW TREASURE」、英会話・「Metro」継続 ② 数・英・国等で反復学習、基礎個別指導 各単元の問題演習の達成状況共有 日々の授業状況の把握 ③ 補習補強の柔軟な実施、自己学習力の育成 放課後学習の活用：個別の補習等 各単元の未達成部分の補習 ICT 活用：授業の展開／課題／チェック デジタル指導書の活用 授業のライブ配信 ④ 進路講演・キャリア教育等で啓発指導 上級生、OB、進路担当、学年、外部講師招へい MIRAI　Project（M／P）時数維持 ⑤ 学力推移調査前後の学級／学年指導 個別目標設定や情報共有（中高関係職員） ⑥ 授業計画、副教材の点検や見直し ⑦ 学習の記録と把握による個別／一斉指導 家庭との連絡協働	① 各学年英数の 3grp 習熟度編成を実施。時期、編成変え等は学年の実情に合わせた。J2J3 数学年度途中より都合 2grp 展開となった。英語の「N／T」は円滑に移行できた。進度展開の工夫をさらに行いたい。 ② 日常的反復演習に取り組んだ。達成度確認の演習や単元テストなどさらに精度を高めたい。 ③ 放課後学習の一環として数英の補強講義を後期実施。発展学習を望む生徒の興味関心を喚起した。また、課題の達成度に応じて補習等に取り組ませた。 スタディサプリ運用については活用状況を鑑み今年度をもって終了とした。授業の O/L 配信は必要に応じて適宜実施。O/L 英会話が試行され、また、オータムキャンプ次の英語集中トレーニングも視野に入った。 ④ ３月に J3 対象進路講話を実施予定。 ９月から２月にかけて探求学習（ M／P）を実施。（株）トゥワイス・リサーチ・インスティテュートが提供する「TWICE PLAN」の「グローバルリサーチワーク」J1、「企業インターンワーク」J2J3 を活用し、社会課題解決学習や企業インターン体験活動を行った。PC を使った G/W が定着し流れができた。内容の精度に差があるものの概ね良好な活動ができている。 ※G／W:グループワーク ⑤ 結果を共有し、個別と学年の目標を意識させ、事前事後指導等行い、自己学習力や実践力につなげたい。 中高共有フォルダー継続 ⑥ J2J3 数学について年度途中より 2grp 展開となった。副教材について変更なし。 ⑦ 明誠ダイアリーを定期的に確認し、近況を適宜共有。学級や学年による差に注意しておきたい。	A 33% B 56% C 7% D 4%	・放課後プロジェクトを活用して、数学の補習などに積極的に取り組む様子が見られた。 ・少人数指導がうまく機能していると思う。 ・習熟度別の授業展開や公立では扱えないレベルへの挑戦ができている。 ・高校部としては先行学習を充実させてくれているので助かる。 ・大学進学において、多くの実績をもたらしており、中学時からの努力が実を結んでいると思われる。 ・個々の先生方の取り組みで徐々に生徒の力がついている。 ◇放課後プロジェクト等を活用して生徒の学力差を補う活動を充実させたい。 ◇教科ごと学習指導についての話し合いの機会を増やす必要性を感じる。同じ教科でも若手の先生は、シラバスを確認し、方向性・統一性によく留意し、生徒の実態に即した発問や１時間ごとの授業の目的をしっかり把握していく必要性を感じる。 ◇生徒に力をつけさせるために、目の前にあるものを教えるとともに、どのように体系づけられた学習内容が形成されるかを考えた指導計画が必要になる。 ▲授業者授業の充実度や満足度を向上すべく、研究授業等の手立てを講じたい。 ◇高校へ進学することが前提であり、早期に文武両道等の中高一貫の意識を高揚していく必要があると感じる。	A 29% B 71% C 0% D 0%	◇明誠ダイアリーの活用状況はどうか。 また、先生方の日頃のチェックは、足並みをそろえてお願いしたい。 ・先生方は熱心に指導をしてくださっている。 ◇中学生の時から大学進学を意識させた長期的な指導計画が必要になると思う。 ◇授業の充実を図るための「授業満足度調査」の実施は評価する。 アンケートがなぜこの結果になり、どのような授業改善が必要かを検討する仕組みを共有させて、充実していただきたいと思う。 学校・家庭が連携し、生徒が「自分の将来のために学ぶ」という自覚をもてる環境づくりを進めていただきたい。 ・習熟度編成が効果的に運用されている。 ・少人数指導のメリットを活かした授業が実践されている。 ・個別指導や補習補強のための体制が充実しており、生徒全体の底上げにつながっている。

	外部模試等で 学力把握 在籍 J3　50名 J2　58名 J1　64名	①　ベネッセ学力推移調査三科目受験と事後指導 64以上　60以上　50以上　40以上 J3　2(3)%　2(3)%　27(33)%　37(50)% J2　4(3)%　2(3)%　18(33)%　45(41)% J1　2(5)%　6(7)%　22(27)%　53(36)% ※J1は第一回目以降検討 ※それぞれの数値は単純の数値を表す ※（　）内は令和７年度の目標数値、参考 ②　実力確認テスト（明誠高校入試）受験 Ｊ３：目標進路の学力水準達成　　五科目 Ｊ２：基礎基本問題の習熟と確認　三科目 ③　英検受験 年度末（２月）の時点 Ｊ３　準２級以上　20(41)%　　３級　40(43)% Ｊ２　　３級以上　40(56)%　　４級　30(40)% Ｊ１　　４級以上　45(35)%　　５級　30(35)% ※それぞれの数値は単純の数値を表す ※（　）内の数値は令和７年度の目標数値	① J3 9月②　64<　0%　60<　3%　50<　34%　40<　50% 4月①　64<　0%　60<　1%　50<　24%　40<　54% 最上位層育成に課題が残ったが、中位層増加、底上げに成果を収めた。 J2　1月③　64<　1%　60<　3%　50<　27%　40<　44% 9月②　64<　1%　60<　3%　50<　15%　40<　49% 4月①　64<　1%　60<　4%　50<　16%　40<　50% 偏差値50以上が増加。底上げも進んだ。集団づくりや最上位層の育成に留意したい。 J1 1月③ 64<　4%　60<　8%　50<　12%　40<　47% 9月② 64<　3%　60<　0%　50<　31%　40<　36% 4月① 64<　3%　60<　3%　50<　27%　40<　28% 最上位層・上位層が複数出た。中位層に刺激策を施し、底上げをさらにねらいたい。 ②J3　通年学習に勤しむ姿が見られた。自己目標に及ばない点について総復習を行い、３月下旬のスタディサポートに備え、好スタートを切らせたい。 J2　概ね既習事項に対しできる範囲内で解答している。レベルアップを果たした者もおり、また、全体的に成長を見ることができた。４月のベネッセテストを意識し、次の学習集団形成を目指したい。 ③ J3　２級　準２級　３級　４級　５級 ２月　2(3)%　24(28)%　52(37)%　6(18)%　6(4)% 10月 0(3)%　17(20)%　51(43)%　14(23)%　11(4)% １級１名、準2＋４名 堅実な取り組みにより、底上げが徐々に進んだ。 ※（　）内の数値は令和６年度の実績 J2　２級　準２級　３級　４級　５級 ２月　0(0)%　8(13)%　30(30)%　44(35)%　8(19)% 10月 1(0)%　3(3)%　20(33)%　33(38)%　7(22)% 準１級１名 全体で引き続き取得意欲を盛り上げていきたい。 J1　２級　準２級　３級　４級　５級 ２月　4(2)%　7(3)%　12(9)%　21(40)%　28(31)% 10月 1(2)%　3(0) %　6(8) %　18(23)%　28(35)% 受験意欲が高く、よい成績を出す者もおり、良好な学習環境を増進させている。	A 32% B 53% C 7% D 8%	・少しずつ、好成績が取れる生徒が増えてきた。 ・充実していると思う。 ・総じて優秀な成績を収めているように思う。 ・ベネッセ中心に定期的に学力の推移をみている。 ▲模試の結果の活用をさらに図りたい。 ・時間配分等よく検討し、テスト対策等に臨む必要がある。 ◇自分が関係する生徒の、全教科の素点を知りたい。 ・進研模試ではなく、全国統一中学生テスト（東進）や駿台・SAPIXなどとの連携も視野に入れるべきである。	A 43% B 43% C 0% D 14%	・この様な模試を取り入れ、学校内だけでなく広い範囲での自分の順位を知ることができてありがたい。 ・充実している。 ・底上げが進んでいることはとても良い。補習や声かけを引き続きお願いします。 ◇模試の結果の分析にチャートをつくるなど、工夫をさせてみてはどうか。 ・中学生の時から、積極的に多くの学生が英検を受けていることが素晴らしい。 ・学力が高い生徒が多い中でも、さらに生徒全体の学力を伸ばすための取組みができていると感じる。
	外部模試等で 学力把握						

		④　各試験結果受取後の一斉学級／学年指導 情報や目標の共有 （中学部・高等部・教科担当）	④　各学力層の到達度の管理とフォロー指導の充実に注力したい。				
Ⅰ 知育の推進	生きる力や総合力をはぐくむ活動の設定	①　　学習・体験活動等とその目標成果の整理・広報・見える化・発表等を通し、主体性、総合力育成の場とする。 行事ごとの一斉指導　手立ての引き継ぎ ・MIRAI Project キャリア教育推進 全学年　後期より　配当時間継続 ・体験入学運営と校内ツアー実施 J2　6月 ・説明会のプレゼン担当や体験学習会の 助手　　内進生 J1～S１　通年 ②　実行委員会を組織した委員会・生徒活動 主体的な目標設定・協働充実 リーダーシップ・フォロアーシップ育成 ③　発達段階や興味を踏まえ、朝読書を奨励する 強化週間の取り組み 成果のアウトプットと共有、周知により 自己分析と他者の理解を促進 ルブリック活用	①　自己目標や主要行事の振りかえりシートを通年で活用。自己の考察の部分をさらに引き出したい。 MIRAI Project の取り組みによって主体性や社会性を培う機会が向上、生徒の自覚も高まっている。培われた力は今後の諸活動に繋がると確信した。 J1J2 の O／L 受信も継続。学級／学年発表等採点方法、段取等を工夫し、よい刺激となり、精度も向上した J2 の中学体験入学ツアーでは計画的に小学生たちをエスコートし、学校案内や説明を行うことができた。新企画があってもよいかもしれない。 説明会や体験学習会で登壇したり、講師助手として活躍したり、有志活動に良く取り組めた。これらの活動で培われた行動力は将来必ず活きる。 ※O／L：オンライン ②　委員会、学年、生徒会等がそれぞれ行事運営に取り組んだ。スポーツデイ、青藍祭、ダンスデイ、（３送会３月）など主体的に取り組んだ。 ③　多彩な文芸コンテストへの入賞者を出すことができたように読書への意識を保持した。また、愛読書の紹介などのプレゼンを強化週間で実施し、集団育成にも貢献した。一方、読書への意識が未熟な者も散見された。	A 22% B 64% C 7% D 7%	・定期テスト前後の目標設定や結果の振り返りを実施し、自分に合った学習方法の確立に向けて取り組むことができていた。 ・校外学習を含め様々な行事を活用できている。 ・高校生との行事も本校ならではである。 ▲足並みをそろえることをよく意識し、様々な行事を計画・実施していきたい。 ・講演会など、有意義なものがあった。 ・中学時代に培われた人間性・人間関係を高校次にさらに発展させるべく高校部の教員も努力しており、よく共有しながら生徒を育成していきたい。	A 29% B 57% C 0% D 14%	・高校生がいることで青藍祭など、公立の高校では体験できない規模の行事がある。 ・朝読書はどのような本を読んでいるのか。 ◇未来プロジェクトのような取組みは他の中学校でも行い始めているので今後も継続すべきだと思う。 ◇自分で考えて行動する力、困った時にどう対応するかという力を育むことが大切だと思う。失敗しても良いから自分で考えて行動する経験を大切にしてほしい。 ・中学体験入学で生徒自身が校内ツアーのガイドや説明を行うのは、主体性と行動力が発揮される良い取組みだと思う。大きな成長の機会になる。
	日本文化理解と国際教養養成 （総合学習）	①　日本文化理解行事実施【（２）回／年　】 J1　自然体験、富士山学習、地域探訪 J2　寺社宿泊研修、企業／都市探訪 J3　寺社・精神文化調べ、企業研修、 地域・古都研修 目的理解と個々のテーマの設定 ②　国際教養養成 J1　Twice plan「グローバルトラベル」等 J2　TOKYO GLOBAL GATEWAY 研修、 JICA 見学等 J3　国際講演聴講（高校部主催、中学生に拡大） 英会話授業【週１回】とアウトプット実践 「Metro」の計画的活用　J1～J3 オンライン英会話（状況による）	①　J1　４月国立中央青少年交流の家宿泊研修、10 月浜松フラワーパーク、中日新聞社浜松都田工場、竜ヶ岩洞探訪 J2　４月可睡斎宿泊研修、10 月東京オータムキャンプ １日目　横浜中華街、アセアンセンター／WFP 協会、JTB スポーツ部・東京大学、H イースト２１宿泊・テーブルマナー研修 ２日目　JICA 地球ひろば、科学技術館 J3 ４月 富士山世界遺産センター、富士ミルクランド 10 月　関西修学旅行　バス２台で往復。１日目慈光院抹茶体験・法話、法隆寺、平城宮跡、２日目東大寺、興福寺、金魚ミュージアム、宇治平等院、伏見稲荷大社、	A 22% B 62% C 6% D 10%	・修学旅行の事前学習等で文化の理解ができている。 ・多様な文化に触れることが多く、多様性に適用しようとする機運は感じられる。 ◇順心幼稚園とのハロウィンイベントとかは、高校の国際教養と一緒に参加するのも良いかと思う。	A 43% B 43% C 0% 14%	・いろいろな経験をさせていただきありがたいと思う。 ◇多感な時期に多様な文化に触れる機会はとても大切に感じる。様々な計画を立ててほしい。 ・社会に出ると年齢や立場、文化の違う人と関わることが多くある。まず自分達が暮らしている日本の文化や歴史・考え方を知ること、語れることが非常に重要だと思う。 ・ハロウィンイベントでの異なる年齢の交流は年代ごとに良い刺激がある。

	日本文化理解と国際教養養成（総合学習）	③　講演や交流会の実施・探究活動 J1　郷土・企業 J2　医療・企業・進路 J3　医療・企業・進路 自己分析と展望 ④　禅寺での研修 学校理解の促進と生活のヒント獲得 ⑤　中高全校講演／講話実施	三日目タクシー班別研修（６年目）、京都駅散策、四日目嵐山周辺班別研修 ②　J1　４月富士山周辺Ｗ／R、10月竜ヶ岩洞・フラワーパーク探訪、中日新聞、10月「警察が取り締まる違法薬物（警察）・覚せい剤の歴史的背景（学校薬剤師）」講演、１月「MIRAI Project」による「グローバルリサーチ」発表・研鑽、３月進路課長進路講話 J2　４月可睡斎法話、10月「警察が取り締まる違法薬物（警察）・覚せい剤の歴史的背景（学校薬剤師）」講演、10月国際交流機関等探訪、12月「賢い消費者の卵育成事業」出前授業、１月「MIRAI Project」による「インターン研修」発表・研鑽、３月進路課長進路講話 J3　４月富士山世界遺産センター、富士ミルクランド見学、10月「警察が取り締まる違法薬物（警察）・覚せい剤の歴史的背景（学校薬剤師）」講演、１月「MIRAI Project」による「インターン研修」発表・研鑽、３月進路課長進路講話 「MIRAI Project」は、中間（学級）・最終（学年）の発表を経て代表チームを決定した。 上級生プレゼンを視聴することにより学びを深めた。よく自覚し、半年間活動を継続できた。 ②　ＴＴ授業の副教材「METRO」を継続 英検の二次対応力にも貢献 ④　Ｊ２　４月可睡斎宿泊研修実施。道徳授業と併せて日常のヒントをいかに得るか指導時留意 ⑤　富士山学習とJ1グローバルリサーチ・J2国際交流機関訪問・J3関西修学旅行と繋がった。O/L英会話試行、次年度J2 A/C時の語学等研修も視野に入り、国際面に注力				・３年間で計画的に様々な校外学習が取り入れられており充実している。社会性・主体性・協調性を身につける良い機会となっている。 ◇藤枝駅周辺で行事やPRを行い、藤枝明誠をアピールしたらどうか。 ◇J1での地域探訪では、学校周辺や住んでいる地区の歴史を調べるのも良いかと思う。 ◇オンライン英会話は公立中学校ではやらないので、アピールできると思う。
Ⅱ　徳育の充実	基本的生活習慣の確立・理解と自己評価	①　身だしなみと挨拶の指導 校風検査【１回／月】 事前事後指導の充実 ③　TPOに合わせた所作・マナー・人間関係・授業態度等を発達段階をふまえて、指導検証する。 打合せ、部会等にて情報交換し、一斉指導の手立てを共有拡充する ③　私物貴重品管理：整理整頓・持ち帰り 清掃指導の徹底 振り返り：なぜ必要かを理解 ④　欠席・遅刻・早退の減少 基本的生活習慣の充実	①　男女別、複数の担当者で実施。頭髪以外は担任がフォロー指導実施（４年目）。爪の長さ、ズボンの折り目不足（男子）に注意 ②　概ね人間関係の問題やSNS対策に関して早めに対応できた。多少工夫が必要な観がある。所作や態度の指導に関して中高一貫の意義を踏まえ、全員で即実践の場所としたい。アンガーマネジメント講座等の講演も役に立った。 ③　若干私物放置が増えたが、概ね適切に指導管理できた。日常生活に油断慢心することなく注意していきたい。啓発の学年／全体指導も継続したい。 ④　欠席等一部あるが、概ね悪くない。後期では感染症の影響で、出停が増加し、J3で学年閉鎖を実施。「基本」の心構えについて啓発を要する。	A 32% B 57% C 7% D 4%	・身だしなみ等、おおむね良好な状態だと感じる。 ・欠席も少なく、朝礼からしっかりと指導できている。 ・自立という文言を意識すると、年相応以上にできるものとやや未熟なものが存在する中で、集団としての取組みについて工夫できる可能性があると思われる。 ・建学の精神に立ち返り、教員が同じ目線で生徒を指導する必要性を改めて強く感じる。共通認識に基づいた指導が大切である。 ◇生徒への指導の時間が、もう少しあればいいなと思う。 ▲「規則を遵守する」という心構えをしっかりと身につけさせたい。（特に、交通規則やスマホなどの使用について） ・高校では「自分の強みを活かし、とれる点数は全部取るのが内進生である」と論しながら指導している。	A 43% B 43% C 0% D 0%	◇先生方のご指導もあり、身だしなみは良いと思う。「自分がどう思うか」ではなく「どう見られるのか」まで含めて考えられるようになってほしい。 ◇生活習慣の指導は特別な時だけに行うものではなく、日々の積み重ねが必要となるので大変だが、指導をお願いしたい。 ◇社会に出てから仕事をする上で特別な能力だけでなく、時間を守る、挨拶をする、約束を守るという生活習慣がとても大切になる。この当たり前なことができることが周囲からの信頼になる。この生活習慣が社会生活に繋がる大切な教育だと思う。

		振り返り：なぜ必要かを理解 ⑤　基本的生活習慣近況について情報発信共有 家庭や学校全体の現状確認と指導力拡充 生徒の自尊感情向上	⑤　各種アンケートからの情報を即共有し対策を講じた。諸通信において、学校生活の生の情報を伝えたり、啓発的な内容をタイムリーに提供した。		学力差から授業の対応が、よく焦点になるが、取り組む姿勢ができていれば、授業に問題はないかと思う。 ▲言葉の使い方という点において気になる時がある。 ◇職員が同じ視点をもち、方向性を共有して指導していく必要を改めて思う。重点項目を決め、効果的かつ徹底して指導したい。		◇規則と同時に原則も教える必要があると思う。 ・校風検査のおかげで身だしなみを整えようと意識するので、助かる。 ▲スマホの（未許可）持ち込みがある。
	特設道徳や実践的生徒指導の機会充実	①　本校理念の浸透、一斉道徳講話実施 及び集会実施【3回】 ②　有志活動の実施 ④　自律性と社会性を培う場を設定し、実践力行動力向上を図る リーダーシップ・フォロワーシップ涵養 ④　交通安全マナーの指導と実践 交通安全教室実施 ⑤　アンガーマネジメント講演等実施 人間関係理解啓発 ⑥　情報端末管理 情報リテラシー（４つの力）啓発指導 講演や集会実施 ⑦　「いじめ」皆無の指導 【いじめアンケート　３回／年】 三配りの精神の涵養 ⑧　成果や伸長について情報発信 現状把握と指導力向上 ルブリック活用	①　J1年３回、全学年年３回、計画的に実施した。「初心」や「先度他心」について時宜に即して講話行い、学校生活のヒントを示した。 ②　全学年的な取り組みは未実施。入試関連行事に登壇したり、行事に積極的に活動を行う生徒が増えた。高校部に進級し、活躍する者も多少目立つようになった。 ③　主要行事、入試関連行事、MIRAI Project 探求活動等において主体的にグループ活動／学級活動を展開し、チームとしての力を向上させた。高校部で活躍する者も目にする。 ④　５月に警察・スケアード・ストレイトによる交通安全教室を体育館でS1生徒と受講。デモンストレーションによる実践指導が印象的で、交通マナー意識保持に役立った。 ⑤　教科書・ノートの計画的な活用を励行したい。 ⑥　年度当初端末の取り扱いのルールを周知した。また、NPO法人ｅランチによる「ネット安全、安心講座を受講。功を奏し、目立った問題は起きなかった。 ⑦　「いじめアンケート」と「生活アンケート」の内容を精査し、タイムリーに懇ろな生徒指導をおこなうことができた。また、集会指導を通して、先渡他心や三配りの精神について昨年度に引き続き計画的に啓発した。 ⑧　日常の情報共有懇と談会・面談、保護者との連絡を適切に機能させた。月次の中学部通信もよく機能した。近況や啓発、読書案内、予定などの内容を興味深く、紹介した。	A 18% B 63% C 8% D 11%	・定期的に存在し、ありがたいことだと思う。 ・講話を中心にしっかりと指導できている。 ・振り返りの時間を大切にしたい。 ・学年目標や時機の目標に合わせて、学年の担任同士よく連携し「道徳」の内容を充実させていきたい。	A 29% B 57% C 0% D 14%	・とても大切なことを指導していただいていると思う。内容が子供達の心に響いてくれることを願う。 ・交通安全やSNSの活用に関して専門家の意見を学べる講座は今後も必要と思う。 ◇講師から「こうすべきだ」と答えをもらうだけでなく、生徒自身が「自分だったらどうするか」、「なぜそうなるのか」を考える時間を大切にしていただきたいと思う。 SNSでの問題、いじめ等が起こる前に自分で考え行動する力を育てることが大切だと思う。 ・様々な方策はトラブルやいじめなど未然防止につながっていると思う。 ・地区懇談会では内進生の保護者の出席率が高かった。保護者と先生方の情報共有がしっかりと行われていると感じた。
	個の尊重と主体性の醸成	①　情報交換で個の把握 「私の紹介」・「私の目標」作成展示 ②　メイセイダイアリの定期点検、 熟読とコメント ③　養護・カウンセラー・生徒課・委員会等 チームの活用、フィードバック共有	①　打合せ等の情報交換で、迅速な対応と指導に繋がった。「私の紹介」・「私の目標」の作成展示は自己の振り返りや他者理解の推進、学級づくりの点で有意義だった。 ②　時宜良く足並みを揃えて活用し、一層効果的に運用したい。	A 25% B 59% C 8% D 8%	・明誠中の魅力の１つといえる。 ・それぞれの生徒に適した接し方が見られ、苦労が察せられる。	A 29% B 42% C 0% D 29%	◇どの学校にもカウンセラーがいるわけではないので、今後とも学校と親子をつなぐ大切な働きをしてもらいたい。 ◇学校でも家庭でも一人一人の違いや個性を認め、それぞれの良さを伸ばしていくことがとても大切だと思う。

		④　生徒理解研修会　【全職員で実施】 成長面・プラス面・注意点等共有 ⑤【生活アンケート　3回／年】 ⑥　随時良い点や現れ・変化をフィードバック、全体で共有	③　カウンセリングや委員会によって、個別指導と協働に活かした。また講演等、専門家の知見を活かし、指導の精度を向上させた。 ④　生活や行動のあらわれを共有し、生徒理解と指導の向上につなげた。中高一貫の生徒指導を意識 ⑤　検査は未実施。アンケートやカウンセリングを活用し、生徒の様子を複合的に理解することに努めた。 ⑥　職員間や家庭と学校間のコミュニケーションが適切に行われ、生徒指導に活かされた。		▲正しいことがしっかりできる指導をしていきたい。教員の目が届かないところで悪い方に流されないようにしたい。 ・女子生徒の積極的な部活動参加があって良いと思う。		・思春期の不安定な時期に個別の対応や指導がされていて本当にありがたい。 ・職員間、家庭と学校間の情報共有が出来ている状態はとても心強いと思う。
Ⅲ　健康な身体の育成	団体行事の用意 団体行動や 行事運営の基本も学習	①　スポーツデイ実施 【参加率95%以上、　2回／年】 相手・チームメイト・周囲への理解向上と敬意・協働、切磋琢磨の気持ちを培う 開会式／閉会式のマナー・規律指導 ②　耐寒持久走取り組みによる身心の錬磨 事前の安定した生活習慣・体調管理 体育での的確な準備・啓発 開会式／閉会式のマナー・規律指導 【参加率95%以上】 ③　体育大会を活用し、 チームワーク醸成・団体種目の記録向上 ④　武道奨励 時数の確保 武道実施ねらいの理解と浸透 ⑤　部活動奨励　【参加率85%以上】 ⑥　ダンスデイ実施 明朗快活爽やかで、円滑かつ規律ある運行 周囲の理解と感謝の気持ち 創意工夫 自己表現力向上　【参加率95%以上】 開会式／閉会式のマナー・規律指導	①５月 アルティメット(男子)、ドッジボール（女子）を実施。１年生歓迎と暑さ対策を配慮して５月実施に変更した。まずまずの手ごたえだった。 ３月 ドッジボール（男子）とサッカー（女子）を実施した。参加率達成、より意欲的に溌剌と取り組むことができた。 ②　グランドコース２年目。観察や安全管理上の長所を今年度も実感。タイムとラップ管理は向上した。参加率は87% ③　元気や活気がまずまず回復した。各種競技はバランスが配慮され、中学生にも多少ワクワク感があったと思う。進行は円滑だった。長縄跳びの記録は練習不足に見えた。簡略化行進５年目 ④　男女武道の取り組みとして柔剣を実施した。柔道衣等は着用しない。基本を学び、ねらいの理解と浸透に努めた。 ⑤　個性伸長と集団育成をねらいとし、参加を促す。 加入率：　J11：96%,　　J12：93%,　J21：72%, J22：81%,　　J31：81%,　J32：80%, 全体：83.8%　前年度より約4%増加。外部団体に参加している者もカウント。参加率回復途上 ⑥　11月予定通り実施。今年度も参観者は延べ１００名前後で盛況。　J3 中心に役割分担を行い、終始円滑に会を運営。節度を適度に保ち活発に演技と鑑賞を楽しむことができた。開会式や閉会式、演舞前後の挨拶紹介を徹底するとさらに好印象になる。指導が必要な部分である。	A 46% B 46% C 1% D 7%	・ダンスデイや球技大会等、中学単独での行事も増えている。 ・オリエンテーションキャンプは有意義だった。 ・意識は高いが、日常に反映しているか考えると何ともいえない。 ・適切に行われていると思う。	A 86% B 14% C 0% D 0%	・クラスの団結につながっていると思う。 ◇中学単独の行事も増えており、継続して行ってほしい。 ・気象リスクのある時代だが、安全確保を最優先にしながら工夫をこらして様々な行事が実施されており、頭が下がる。 　集団行動を通じて協力すること、コミュニケーション能力を身につける良い機会となっている。 ・団体行事は生徒にとって楽しい思い出になるだけでなく、社会に出てから必要となる力を身につける貴重な機会だと思う。一つのことをみんなで成し遂げるためには、事前の準備を一人一人が自分の役割に責任をもって果たすことが大切だと思う。 ・様々な取組みがあってすばらしいと思う。 ・体育大会は規模が大きい。参加する競技が増えてほしいと思うが、生徒達は楽しんでいたようだ。
	団体行事の用意 団体行動や 行事運営の基本も学習						

Ⅳ 豊かな生活の追求	特別活動や課外活動の準備と充実	①　キャリア教育の一斉の主体的計画的取り組み 探究活動 ： MIRAI　Project 「world tours」J1 「企業インターン」 J2 J3 特活・MD内に設定 中高の他校とコンテスト	①　９月から２月のおよそ半年の間「総合」の時間を25時間前後配当し探究活動を実施。各学年は約１５グループに分かれ、グループワークに取り組み、課題解決を試みた。学級発表、学年発表を経て、内容やチームワーク等磨き上げた。他グループのプレゼンを見ることにより学びの質と量、効果を増幅させた。	A 35% B 57% C 1% D 7%	・青藍祭に向けて、学年や学級で連携協力をし、準備や発表ができていた。 ・特に部活動に所属する生徒は近年非常に精力的に行えていると思う。 ・充実したものとなっていると思う。 ・準備や振り返りの時間を大事にしたい。 ・適切に行われていると思う。	A 57% B 43% C 0% D 0%	・充実していて良いと思う。 ◇この時期様々な体験や経験を通して学ぶことが大切だと思う。それが子供たちの学びに対する興味関心につながると思う。 ◇計画を立て、役割を分担し周りと相談しながら一つの目標に向かって進めていく経験は、将来にも役立つと思う。 　行事が終わった後に、うまくできたこととできなかったこと、次回はどう改善していくかを振り返る時間を設けることも重要だと思う。 ・準備をしっかり行ったから本番がうまくいったという成功体験を通して、準備の大切さを実感できるのは本人のこれからに役立つ。 ◇中学３年間充実した学校生活を送ることができ、感謝している。 　行事の多さは誇り。パンフレットに１日の過ごし方を見開きでわかりやすく、年間行事同様に、載せてみてはどうか。
		②　青藍祭に、部・学年・学級で参加 創意工夫し、実践力や協働性を磨く場とする リーダーシップ・フォロワーシップ涵養 展示物には価値観教育への成果を記す 公開日特に公共マナー実地検証	②　Ｊ１はオリエンテーションキャンプ、J2 は可睡斎の展示、J3 はアトラクションを展開、それぞれ踏襲した。計画立案交渉、準備、進捗管理、会場セットやオブジェクト制作等意欲的に取り組んだ。チームワークを通して多くの経験をし、また協働的な学びの場となった。片付け等事後対応もよく、感心した。				
		③　フィールドワーク【２回／年】、芸術鑑賞 自身の思考力や発想力向上に資する体験学習を行う 公共マナー実地検証 事前事後指導の充実	③　４月と１０月に各学年行事を実施し、発達段階に応じた校外学習を実施した。学びのねらいについて、事前指導／学習の段階でもう一歩踏み込み、考察を深めるきっかけ作りするとよいだろう。 芸術鑑賞教室では「志多ら」による和太鼓公演を鑑賞した。今回は代表生徒参加型の実技体験もあり、興味関心をいっそう喚起した。				
	特別活動や課外活動の準備と充実	④　行事や活動のまとめと発表・展示 学びについて自己分析し、学校・日常生活の改善に向けてヒントを得る 自己表現力向上 活動の公報と理解向上	④　常時ワークシートによる掲示を実施し、自己分析や各振り返り等級友とのコミュニケーションが進むよう工夫した。タブレットの活用率も向上させた。グループワークの段取り等事前の周知徹底し、クロームブックの効果的活用を促進した。概ね生徒達は端末の活用について柔軟かつ熱心に取り組んだ。 　活動中の様子など一見地味そうだが、ある行事の一端としてHP 等で公報していくとよいと考える。				
		⑤　学習集団の向上（行事・授業等活用） プレゼンや議論を活かし、洞察力、コミュニケーション力や創意工夫する力を上げる 学年混成集団で活動することにより、自他への関心を深め、共通体験の価値の理解を深める。	⑤　一つ一つの活動の目標の繋がりを意識し、運営指導した。探究活動のグループワークによって、個人やチームの成長にとても役立った。中一に対しては、発達段階を意識し、取り組みの展開についてもう少し助言が必要かもしれない。概ね生徒達はグループワークの取り組みに充実感を感じている様子が見られ、学級・学年・学校の一体感の醸成にもつながった。				

	特別活動や課外活動の準備と充実		J3の順心幼稚園における「ふれあい学習」もよい学習機会となっている。実体験により、自身ばかりでなく、他者や他社会（集団）と接することにより初めて見えてくるものや学びがあり、生徒の実感や達成感は本人が思っている以上に大きいと考える。				
		⑥　各種団体の文芸コンテストに参加 想像力や個性を発揮し、自他の理解を深める。	⑥　諸定番コンテストに参加を継続した。入選する作品もしばしばあり、機運や意識が向上。全体の文化的な風土づくりにつながった。一つ一つの取り組みが重なり、長い目でみて大きなまとまりが少しずつ見えてくる例である。継続することが大事 仲間の側面を見つめることにより、自分自身もより見えるようになり、ひいては全体を俯瞰してみる力を養っている。				
		⑦　自尊感情や自己有用感を高め、学び合う仲間であることを自覚する。 達成感や帰属意識を得る。	⑦　ワークシートの紙面活用において、名前・挿絵・装飾等明るい個性的なアプローチが良く見受けられた。これらも一つの自己表現であり、教員はいろいろな角度から受け止め、理解に努める必要があるだろう。活動の分析の面では、クリティカルな部分の意見や主張において弱さを感じることもある。主要行事や特別活動の際、教員側からの問いかけによる、きっかけづくりも励行継続したい。 年複数回のアンケートにおいても生徒は正直に振り返りを行っている。適時に生徒たちにフィードバックし、励まし・育成のポイントにしていきたい。 目立った活動実績に対して必ず顕彰し、ほめ言葉をかけてやりたい。同時に学び仲間や家庭の理解や支援に対しても敬意を言葉で直接・間接に表し、自他の成長を促進し、喜びや達成感を共有していきたい。				

	コミュニケーションの増加	① 面談の奨励（希望面談も用意） 【3 or 4回／年】	① 4月新年度個別面談、7・8月夏休み二／三者面談、 11月個別面談、6・11月オープンキャンパス期間希望面談、9月～2月適宜個別面談による生活・学習・進級指導等実施 J3に関して高校進級指導を念入りに実施 カウンセラー・養護教諭と連携し、家庭とのコミュニケーションにも注意した。	A 33% B 48% C 6% D 13%	・夏休みの保護者との二者面談を通して、生徒の学校生活の様子や家庭での様子を共有し、生徒とのより良い指導のための参考にすることができた。 ・保護者との連絡が密にできている。 ・行事に参加する保護者の数も多い。	A 57% B 43% C 0% D 0%	・沢山の生徒を相手に先生方はよくやっていると思う。 ◇親子で行う三者面談の時、前半は親子で行い、後半は親との二者面談をする等の工夫をすると、担任の先生と親御さんの率直な意見が出やすいかもしれない。
		② 懇談会・保護者会等実施	② 5月学級懇談会、 9月・2月学級／学年懇談会 保護者懇談会の出席率はおよそ40～90%、オープンキャンパス・諸行事、個別面談等来校の機会を鑑みると、まずまずの出席率ではないかと考える。		・保護者との連絡や生徒との面談を適切に行うように心がけている。 ・電話等の応対を見ていると、実に丁寧になされていると思う。		・中学生の時期は自分の気持ちをうまく言葉にできなかったり、悩みを抱えていても相談できなかったりすることがあると思う。学校においても先生と生徒、先生同士、先生と保護者そして学校と地域など、組織の中でもコミュニケーションが非常に大切になる。面談などを通して生徒一人一人と落ち着いて話す時間を確保することはとても大切だと思う。
		③ 「すぐーる」活用 連絡網、出欠等 アンケート等 配信通信 成績配信 課題学習状況の確認	③ 各行事2週間前後前に通知を配布・配信した。諸データも通知するようになってきており、活用度や重要性は上がっている。		◇生徒理解会議の時に家庭との連携や対応についても共通理解が必要かと思う。 ◇保護者会の充実。		・問題が起きた時だけでなく、生徒の長所や日頃の頑張りを共有できるのは安心感がある。
		④ 内進高校生の情報も含め生徒・中学部近況の発信 「藤枝明誠ニュース」等機関紙	④ 3月全学年対象に大学進学の基本や現状について、進路課長から説明した。自校や内進生の様子を見聞し、自身の目標の振り返りと進路意識の高揚を図った。前期・後期の内進生の進路啓発機会を柔軟に確保し、一貫生のメリットを活かしたい。 機関紙・授業配信については、個別対応で数件実施。臨機応変に対応する環境が定着した観がある。		◇高校までの6年間を意識した指導を担任ベースで徹底する研修を行い、帰属意識や一貫生としてのプライドを高揚させていきたい。 ◇さまざまな課題を抱える生徒に対応すべき現状を鑑み、家庭との連携を密にしていく必要性がある。		・「すぐーる」が活用できている。必要な情報をすぐ確認しやすい。
		⑤ 家庭との直接の通信	⑤生徒の近況に関する情報提供が電話等で適切に行われており、家庭との良い関係つくりにつながった。教員によって若干の差はあるが、節目に合わせて学年の教員ごと連携し、強化期間を意識していくのもよいと思う。放課後コミュニケーションに少なからず時間を費やす姿がよく見受けられた。				

V 家庭・地域との連携	広報活動の充実	① 中学部通信・学級通信等の発行 【月次】 ② HP 活用 「新着情報」更新 SNS（インスタ）の活用 ③ オープンキャンパスや説明会等でのアンケート実施とフィードバック（FB） ⇒トル ④ 行事や発表会の広報と開放	① 月次で発行を担当。近況や顕彰、今後の予定・啓発記事と学校理解の場として活用した。タイムリーに学校の近況を清々しく伝達し、家庭に有意義な情報を提供した。家庭との風通しを良くする点のおいても機能した。学級通信は、主に時節の啓発内容を掲載し、学校生活や行事、生活のレベルアップをねらった。 ② お知らせの配信や臨時または緊急の情報提供手段としてよく機能した。 課題のチェックについては研究工夫を続けていきたい。 ③ アンケート内の各意見・提案や質問について検討し、必要に応じて対応した。 ④ 青藍祭、半日入学、体育大会、ダンスデイ、耐寒持久走、交流会など開放。特に中高全校の行事やダンスデイは盛況だった。広報については担当と役割等綿密に準備が必要	A 30% B 50% C 13% D 7%	・対外の活動も増えてきている。 ▲もっと魅力を発信できたらと思う。 ・適切に行われていると思う。 ◇インスタグラムを活用し、中学校でのイベントも頻繁に保護者へ向けて行うべき。 ◇費用対効果について客観的に検討したい。 ◇渉外活動について改めてワンチームを意識して、取り組んでいきたい。	A 29% B 71% C 0% D 0%	・学校案内のパンフレットの内容がわかりやすい。装丁も良い。スマホでの情報収集もメリットはあるが、手元に残る冊子は安心感がある。 ◇どんな良い活動をしていてもその活動を外部の人に知ってもらわなければ、その良さはなかなか伝わらない。 ◇インスタ等、SNS での発信も平衡を保ちながら活用してほしい。 ・インスタは、何気なく携帯をさわっていると流れてくるので、よく目にする。
VI 生徒募集	渉外活動の充実	① 各行事の推進とフォロー作業 ・説明会等 人員と相談機会の拡充 J2J3 生徒プレゼン；FW・探究学習 アンケート結果の活用 （改善・FB・PR 等） ・6/27（土）体験入学 ←台風により中止 J2 生徒の活用 ・小 6 授業体験　5/16（土） 五教科（二科目選択） ・小 4/5 理科／英語体験学習会　三回 8 月理、11 月英、2 月理 J1～S2 生徒インストラクター 学習内容の吟味 ・小 6 オープンテスト 三回　8 月、9 月、11 月 （土）／（日）、内容の検討 算数の問題構成、配点等変更	① ・説明会　　5/24 :21(55)名、6/28 :63(71)、7/12 :38(55)、 8/2 :47(33)、9/13 :43(67)、 11/8 :73(60),11/22 : 40(26), 2/14 :39(40) オープンテストや体験学習会と同時開催。生徒を登壇させ保護者の学校理解を促進した。来校数は年度後半徐々に挽回傾向 ・6 年理科体験学習会　未実施 ・講習会 ① 9/3　:39(39)名 ②10/8　:33(46)名 ・オープン ①7/12　50:(77)名 ②9/13　58:(77)名 ③11/8　69:(80)名 説明会時、学力と学校理解の面を明確に説明した。 呼び込み策も練り、活動を展開する必要がある。	A 36% B 43% C 11% D 10%	・オープンテストが導線になれていると思う。 ◇少子化の傾向の中での生徒募集には、新たな手立てを考えれば良いということだけではない気がする。 ・〇〇教室など、手を変え品を変え様々に工夫されている。 ◇地元小学生を招く機会を活用したい。 ・授業体験会や理科体験会等中学部の先生方が良く取り組んでいる。 ▲オープンテストや体験会への参加人数を伸ばしたい。 ・適切に行われていると思う。 ◇まずは「明誠中学校」の存在を知ってもらうための活動を行う。具体的には志太榛原の皆様の集まる場所やイベントに参加してチラシを配るなど ◇よりタイムリーな立案、共有、指示等早め早めの準備が必要	A 29% B 42% C 0% D2 29%	◇説明会等で「高３の先輩」に自身の中１からの成長ストーリーを直接語ってもらうことで、「自分も入学したら、こうなれるんだ」ということが伝わると思う。 ◇学校がどのような考え方でどのような人を育てようとしているのかを、分かりやすく伝えることが重要だと思う。 ・様々な取組みがなされていて、すばらしいと感じる。 ・小学校、塾へのタイムリーな訪問を実施しており、件数も多く先生方は多忙の中、熱心に取り組んでいる。 ・小学生に「在校生」の姿を見てもらうことは生徒募集に繋がり、保護者に安心感をもってもらえると思う。実際にいきいきとした先輩の姿を見ることは「自分もそうなりたい」という気持ちや、あこがれを持つのではないかと思う。生徒の挨拶、言葉使い、生徒同士の仲の良さを目の当たりにすることができ、学校の雰囲気もわかると思う。

VI 生 徒 募 集	渉外活動の充実	・名簿の整理、DMの活用、 直近の訪問活動等拡充 ※実績数（ ）内数値は昨年度の数値を表す ※中間　経過 5/24　説明会　児童18　保護者21 6/28　半日体験入学　　6年 児童44　保護者63 7/12　オープンテスト①　6年 児童44(52)　保護者38 8/2　理科体験学習会　4/5年 児童55　保護者47 ② 小学校や塾への渉外活動 範囲 訪問・タイミング頻度等拡充 ※中間　経過 小学校訪問(98校) 志太・榛原・小笠・静岡（安倍川以西） 5月　青藍祭・説明会　案内 7月　理科体験　学校案内 塾訪問(65校)　志太・榛原・小笠 6月　説明会案内 7月　学校案内　過去問　理科体験案内 ③ 各種行事の活用；公開と広報 ④ 「学校案内」 リーフレット；入試関連行事 ポスター作成 グッズの活用等配布の拡充	・入試 一次　59（68）名　：単48（53）　併11（15） 二次　2（2）名　：単2（2）　併0（0） 募集定員70名になり8年目、50(58)名入学予定。出願単願率が81(78)%に増加、女子は54(55)%で横ばい 総受験者数は減少した。 併願生の戻りは3名、入学生男子22名(44%)、女子28名(56%) ・4・5年説明会 8/2（土）：47(33)名 11/22（土）：40(24)名 2/14（土）：39(40)名 ・4・5年体験学習会 8/3（土）：59(50)名　理科 11/22（土）：31(26)名　英語 2/14（土）：37(54)名　理科 実施日時やキャンペーンなど、準備や段取りに留意していきたい。 内容を振り返り、必要に応じて変更してもよいと思う。 ② 小学校訪問約100校。　5・6月（青藍祭前）・7月（理科体験前）・11月（英語体験前）・1月(理科体験前)　等を基本として訪問した。5月はアポを取り訪問した。 志榛・小笠・静岡地区諸々の塾を複数教員が分担し訪問。「学校案内」・「入試行事リーフレット」・学園祭／体験学習案内・通学バス案内・通学費補助案内・過去問題等配布。また行事の都度DMを送付、または電話で各行事の参加を促進した。 ③ 青藍祭、定期演奏会等に招待した。 ④ 入試行事年間予定リーフレット、各種リーフ（講習会・オープンテスト・体験学習会・通学補助支給等）を配布ないし送付した。 体験学習会用自家製ポスター掲示を校内外で適時推進した。				◇新幹線利用者に藤枝明誠を知ってもらうための方策を講じる。 － 校舎屋上寄り垂幕の設置など ◇地元ラジオ(SBS・K-mix)を活用しての藤枝明誠イベントアピールやラジオイベントへの参加 ◇AIの情報をもとに志太榛原での地域別出生状況を踏まえた市場分析を行い、３年ごとに生徒募集計画を策定し実施する。等々

Ⅶ 教育施設・設備の活用	快適な教育環境の実現	①　教室内外美化／整理整頓 ロッカー／机の中 貴重品BOX 廊下／階段 清掃用具入れ（／トイレ） 雑巾整頓、活用等 流し／流し下トレイ（鉄板） 靴箱／傘立て 管理目的の理解 【放課後巡回　複数回／日】	①　概ね通年まずまずの整理整頓状況を維持できたが、下級生については、行事の後にロッカー内の復元が遅れることが若干あったり、ロッカー・机の中・鞄の中等バランスよく整頓ができてないことがあったり、注意を要する時もあった。いずれもＳＨＲ中に解決解消できることであり、ひと手間を惜しむことのないように注意していきたい。 移動教室時の机上片付けや更衣の整頓、電源管理等意識的に行動ができているが、十分ではないことも昨年度同様留意する必要がある。 清掃後の雑巾洗いと整頓、清掃用具入れ内の整頓、備品の管理については一部注意が必要である。いずれもSHRやＬＨＲ時に対応や啓発は即時可能である。 管理目的の理解や啓発指導、フォロー指導等後手に回っている面もあり、注意が必要である。	A 19% B 58% C 17% D 6%	▲教材の保管場所や必要な用具等の情報共有が不足した。 ▲教室カーテンのすそのほつれや汚れが気になる。 ◇公立学校でエアコンを完備してきている中、更なる環境の充実に努めたい。 ・清掃や教室内の整頓等に、生徒も良く取り組んでいる。 ▲生徒の学習机の天板の疵、欠けなどが気になる。夏休み等に天板の張替えなどを実施したい。 ◇食堂が必要になってくるかと思う。 ◇エアコンのない教室や体育館、武道場にエアコンを入れてはどうか。 ◇施設内の破損箇所を直す手順／フローを見える化し、フィードバックもほしい。	A 0% B 43% C 14% D 43%	・整頓が行き届いており、すっきりしたイメージがある。 ◇防災教育と訓練は定期的にしっかり行われている。予告なしの避難訓練も続けるとなお良い。 ◇生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全快適な教育環境を整え、維持してもらいたい。また、生徒・先生方の声を定期的に聞き、改善にいかしていただきたい。 ◇会社等でも熱中症対策が義務化されてきた。学校においての各所のエアコンの設置の検討は必要かと思う。 ◇体育館の空調の設置の検討はどうか。
		②　駐輪場管理 使用方法、管理目的の理解	②　特に目立った問題等なく、適切に駐輪場を一年間使用、維持できた。巡回を行い、現状把握を怠らず、使用方法について時折注意喚起、啓発指導し、トラブルの予防をしていきたい。				
		③　設備・備品の保全 電源スイッチ プロジェクターリモコン／ペン エアコンフィルター カーテン・バンド 清掃用具、トイレタリー チョーク、黒板消し チョーククリーナー 掲示板 【放課後巡回　複数回／日】	③　概ね公共物を適切に使用することができた。乱暴な扱いや行動はほぼなかったが、ものを丁寧に扱っているわけではない場合もあり注意は日常的に必要である。カーテンの破損、フロアー表面の消耗、机の天板等定期的なチェックにつとめたい。				
		④　防災教育と訓練の実施　【２回／年】	④　４月と８月に防災訓練を行った。 ４月は一次・二次防災避難訓練を実施。二次避難はグランドで、整列、点呼確認終了まで、例年同様の実績で、きちんと意識を持って行動できた。 ８月は防災学習会を各クラスにおいて実施した。 プロジェクターとスクリーンをセット、生徒はクロームブックを使用した。焼津市の台風１０号被害を動画で視聴したり、ハザードマップを視聴したり、ハザードポータルサイトを確認したりした。また、気象庁の「キキクル」を活用し、多角的に防災情報を視聴収集した。これは新企画で今の時代にあった活動で、よく充実していたと思う。				